

Title	臨床哲学研究会・シンポジウムの記録
Author(s)	
Citation	臨床哲学ニューズレター. 1998, 2, p. 123-124
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/81757">https://hdl.handle.net/11094/81757</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## [VIII 臨床哲学研究会・シンポジウムの記録]

### <研究会>

第1回(1995. 10. 25)

鷺田清一(大阪大学教授 倫理学) : 《苦しむ者》(homo patiens)としての人間

第2回(1995. 11. 30)

中岡成文(大阪大学教授 倫理学) : 臨床哲学はどのようなフィールドで働けるか

入江幸男(大阪大学助教授 哲学) : ボランティア・ネットワークと新しい〈人権〉概念の可能性

第3回(1996. 4. 25)

フリー・ディスカッション

第4回(1996. 5. 17)

川本隆史(跡見学園女子大学教授 倫理学) : 関東大震災と日本の倫理学——四つの症例研究

第5回(1996. 5. 30)

池川清子(北海道医療大学教授 看護学) : 看護——生きられる世界からの挑戦

第6回(1996. 6. 20)

堀 一人(大阪府立刀根山高校教諭) : 「おかわりクラブ」の実験から——職業選択から自己実現への道筋

第7回(1996. 9. 26)

鷺田清一・中岡成文 : 哲学臨床の可能性

第8回(1996. 10. 17)

小松和彦(大阪大学教授 文化人類学) : 「癒し」の民俗学的研究

第9回(1997. 1. 23)

荒木 浩(大阪大学助教授 国文学) : 「心」の分節——中世日本文学における〈書くこと〉と〈癒し〉

第10回(1997. 7. 3)

鷺田清一 : 臨床哲学事始め

山口 修(大阪大学教授 音楽学) : 音と身

第11回(1997. 9. 25) テーマ「看護の現場から」

伊藤悠子(芦原病院看護婦) : Fever phobiaの克服に向けて——Nightingale看護論に依拠した小児科外来における実践から

西川 勝(PL病院看護士) : 臨床看護の現場から

第12回(1997. 11. 27)

小林 愛(奈良市福祉協議会 音楽療法士) : 音楽療法をめぐる

<シンポジウム>

第1回(1996. 12. 13) テーマ「哲学における〈現場〉」

熊野純彦(東北大学助教授 倫理学)：死と所有をめぐって——〈臨床哲学〉への途上で

古東哲明(広島大学教授 哲学)：臨床の現場——内と外との交差点

池田清彦(山梨大学教授 生物学)：おまえのやっているのは哲学だ／おまえには哲学がない

第2回(1997. 2. 21) テーマ「ケアの哲学的問題」

川本隆史：生きにくさのケア——フェミニスト・セラピーを手がかりに

清水哲郎(東北大学教授 哲学)：緩和医療の現場——QOLと方針決定のプロセス

中野敏男(東京外国語大学教授 社会学)：コメンテーター

第3回(1998. 2. 20/21) テーマ1「女性のセルフをめぐって」

北川東子(東京大学助教授 ドイツ思想)：孤立コンプレックス

吉澤夏子(日本女子大学助教授 社会学)：親密な関係性

藤野 寛(高崎経済大学講師 ドイツ思想)：コメンテーター

霜田 求(大阪大学助手 倫理学)：コーディネーター

テーマ2「国際結婚」

山口一郎(東洋大学教授 哲学)：ドイツと日本のあいだで——日常としての文化差

嘉本伊都子(国際日本文化研究センター講師 社会学)：国際結婚とネーション・ビルディング

浜野研三(名古屋工業大学 哲学)：コメンテーター

熊野純彦：コメンテーター

田中朋弘(琉球大学講師 倫理学)：コーディネーター